

NHK番組「韓国過熱する“少女像”問題～初めて語った元慰安婦～」 制作したみなさんに問う！

2017年2月2日

『〈平和の少女像〉はなぜ座り続けるのか』編著者
岡本有佳・金 富子

私たちは、〈少女像〉に関する日本で初めての、唯一の著書として、韓国・日本・米国などでの取材をもとに、編著『〈平和の少女像〉はなぜ座り続けるのか』（世織書房）を昨年2月に刊行しました（日本軍「慰安婦」問題 web サイト制作委員会編、8月に増補改訂版刊行）。その意味で、NHK番組「韓国 過熱する“少女像”問題～初めて語った元慰安婦～」(「クローズアップ現代+」2017年1月24日放映。以下、番組)に注目しました。しかし、その番組内容は、全体として、取材の甘さ、ミスリードが散見され、〈少女像〉と韓国社会の世論や市民運動を歪めて伝えたものであり、深く失望しました。

〈少女像〉の正式名称は、「平和の碑」といいます。ソウルの日本大使館前で日本軍「慰安婦」問題の解決と平和を求めて20数年間行われてきた水曜デモ1000回を記念して、2011年12月に市民の募金と民間団体の手によって建てられました。当時から日本政府は〈少女像〉撤去を執拗に要求してきましたが、日韓外相「外交合意」(2015年12月)によって〈少女像〉が一躍、焦点の一つになりました。しかし皮肉にも、このことが韓国や海外での「少女像」設置が爆発的に広がるきっかけになったのです。

釜山でも日韓「合意」に反対する大学生や高校生ら若い世代が、昨年1月から約1年かけて〈少女像〉設置運動を展開しました。〈少女像〉設置は、日韓「合意」に対する、市民たちの応答であり抵抗運動になりました。

以下、番組への疑問点を列挙し、番組を制作したみなさんに問いかけたいと思います。

1. タイトルに先入観が入っていませんか？

番組は、「韓国 過熱する “少女像” 問題」というタイトルが示すように、韓国にだけ「問題」があるかのようなイメージ操作をしています。そもそも日本政府が〈少女像〉の撤去・移動を要求しなければ、生じなかった問題です。むしろ執拗に〈少女像〉撤去を求め続けるなど「過熱」しているのは、日本の方ではないでしょうか。

2. 「当事者」の〈少女像〉への思いは？

番組は、「当事者の思いとは異なる形で少女像が設置されている」と断定していますが、〈少女像〉設置に賛成し、撤去に反対する「被害当事者」の声を取材し、伝えていますか？

たとえば、昨年1月に来日した「当事者」である姜日出さんは「〈少女像〉を撤去するのは私たちを殺すこと」と述べています。ほかにも「自分の分身」だという「当事者」、「どれほど慰められたかわからない」という「当事者」などもあります。

3. 釜山の〈少女像〉設置の理由は？

釜山の〈少女像〉について、番組では、昨年11月初めからはじまった朴槿恵大統領への抗議デモを取り上げ、「こうした政治的な空気の中で、釜山の日本総領事館前に〈少女像〉は設置されました。」と大統領スキャンダルが背景にあるような構成になっています。

しかし、釜山では、昨年1月6日から日韓「合意」に反対する大学生や高校生ら若い世代を中心に、「人

間少女像ひとりデモ」がはじまりました。それは昨年12月28日の設置まで毎日交代で350日余り続き、その間、じつに多様な市民がおおぜい加わっていき〈少女像〉設置運動が展開されたのです。私（岡本）も取材しましたが、その生き生きとしたレポートはSNSや一部のメディアで伝えられています。ちなみに設置されているのは、正確には日本総領事館の後ろ側です。

〈少女像〉を問題だと取り上げるならば、NHKは韓国の市民たちがなぜ〈少女像〉を設置し、守ろうとしているのか、そこに込められた人々の思いはどんなものか、なぜこんなにも多くの韓国市民が日韓「合意」に反対しているのか、取材し伝えていますか？

4. 突如あらわれる男性と不自然なナレーション

釜山の〈少女像〉の場面では、「日本と良好な関係を維持すべきだ」という男性が現れました」というナレーションに続き、右手に「LOVE JAPAN」と書いたプラカードを持った、正体不明の男性が登場します。次の場面ではその男性が「もう憎しみ合うのはやめましょう」と言いテロップが出ます。左手にはハン글で「韓米日同盟強化」と書かれたプラカードを持っていますが、これはテロップで翻訳が出ないため大部分の視聴者には意味がわからないでしょう（下写真）。しかしこれは朴槿恵政権の立場そのものです。ここで「これに対し、学生グループのメンバーは非難を浴びせました」とナレーションが流れ、〈少女像〉を設置したメンバーの学生が「〈少女像〉の横に立たないでください」「恥づかしくないんですか」と真剣な表情で問いかけるカットが入るといふ編集になっています。

この男性が何を訴えているのか正確に伝えないまま、学生の発言には「非難を浴びせる」という不自然なナレーションを付け、学生が攻撃的であるかのよう



「韓米日同盟強化」と書かれたプラカードを手にした男性の場面。ただし、プラカードに何が書かれているかはテロップには出ない

■番組出演者：奥園秀樹（静岡県立大学 国際関係学研究科 准教授）
鎌倉千秋（キャスター）、池畑修平支局長（ソウル支局）

な印象づけをしています。（傍点筆者）

5. 〈少女像〉撤去前提の偏向報道

そもそも加害国側が、民間団体や市民らが建てた〈少女像〉の撤去を被害国政府に要求するのは、二重、三重の意味で本末転倒です。たとえば、米国が広島「原爆死没者慰霊碑」撤去を要求したら、日本国民はどうしますか？ また、ドイツでベルリンという政治的文化的中心地にホロコースト記念碑が設置されていることを考えれば、むしろ日本にこそ加害の過去を忘れないための「慰安婦」に関するメモリアル・記念碑が必要です。しかし日韓「合意」では、加害国として再発防止のための歴史教育に一切触れず、「合意」後も韓国側からの「おわびの手紙」要請に対し安倍首相が「毛頭考えていない」と発言、「慰安婦」の記述は教科書から削除されたままです。これらを当事者や韓国市民はどう見ているのか、伝えていますか？

番組は、〈少女像〉撤去や日韓「合意」を不動の前提として、これに抵抗する韓国の世論や運動を「加熱」「冷静でない」「ポピュリズム」「猛反発」「先鋭化」などと一貫してネガティブな言葉で批判（批判の中身は触れない）するのに比べ、この間の日本政府の姿勢や対抗措置への検証、あるいは「少女像撤去」に疑問を呈するなど日本社会の中の多様な声、そして国連人権機関による「合意」への評価など、伝えたでしょうか？

6. 韓国の保守論客だけ「冷静」？

番組では、韓国社会での「冷静さを呼びかける論調」として、韓国経済新聞主筆、チョン・ギュジュ氏を取り上げています。この人物は、超保守派メディア韓国経済新聞の保守論客で、最近、朴槿恵大統領単独インタビューを自身が運営するインターネットTVで公開し、多くの批判をあびました。韓国メディアのうち唯一この保守論客の主張だけを「冷静」な主張として取り上げ、多くの韓国メディアが「極端な主張」を報道していると印象づけています。

一方、多くの韓国メディアや市民たちの声を取材し伝えたでしょうか？

「慰安婦」問題解決のため時間がないと繰り返すキャスター。ならば、韓国社会のさまざまな反応や意見、日本政府への批判も含め客観的に伝えることこそ「解決」への道を探るためにジャーナリズムが果たすべき役割ではないでしょうか。安倍政権に自発的服従をするのではなく、権力を監視する役割をもつジャーナリズムの精神にたった番組づくりを切に求めます。